

⑭【平成30年7月豪雨】道路の早期復旧による社会・経済活動の支援及び鉄道・高速道路の早期復旧支援

受賞機関 国土交通省 中国地方整備局 広島国道事務所

キーワード 災害時の交通マネジメント、早期復旧

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成30年7月豪雨により45箇所の被災を受けながらの早期復旧と、円滑な交通確保のための効果的な交通マネジメントの取組み。JR呉線と広島呉道路の早期復旧のために、迂回路により交通を確保している国道31号の用地を土砂置き場等として提供し活用してもらうことで、復旧時期の前倒しを実現させた点や、災害時の交通マネジメントという新しい視点から渋滞対策に取り組んだ点が評価された。

1. はじめに

平成30年7月豪雨では、甚大な被害が数多く発生した。これまでの災害対応を教訓に事務所総力を挙げて復旧作業等を進めた。

2. 事業の概要

平成30年7月豪雨では、6日夜から記録的な大雨となり短時間の間に管内72箇所（うち規制を伴うものは45箇所）で被災した。このような中、広島県第三の都市である呉市が完全に孤立していることが判明。呉市に繋がる東広島呉道路と国道31号の啓開を集中的に行い、24時間体制で啓開作業に取り組んだ。

一方、広島・呉間を結ぶ国道31号では、JR呉線と広島呉道路が近接し通過している水尻地区で大規模な土砂崩落があり、土砂撤去には相当な期間を要することから、国道と並行する海水浴場の駐車場を迂回路とする計画を立案。駐車場を管理する広島県や地元自治体の坂町と調整し協力が得られ、迂回路設置が実現した。

また、国道31号やJR呉線上に堆積した土砂撤去と広島呉道路の盛土復旧作業については、復旧作業を加速させるため、国交省・JR・NEXCOの3者で調整し、迂回路確保後の国道31号を作業ヤードとして提供し、大量

の土砂を一体的に撤去・搬出する作業を行った。

一方、広島呉間を直接結び唯一確保された交通網であった国道31号では救援物資などの輸送等もあり、激しい渋滞が発生していた。

このため、渋滞緩和策として右折レーンの延長など道路管理者として対応可能な対策を講じつつ、整備局から関係機関に呼びかけ交通マネジメント検討会を設置し、ハード・ソフト対策を、前例や所掌にとらわれることなく提案し、関係者と調整を行い関係各者で即座に実行した。特にマイカー通勤から公共交通利用の呼びかけや、バス専用レーンを設けるなど代行輸送バス（災害時BRT）を運行し定時性を確保した。



他機関と連携した渋滞対策

3. 事業の成果

東広島呉道路は、被災から3日後に通行可能となり呉市の孤立は解消し、国道31号は迂回路設置により、被災から5日後に通行可能となった。事務所管内45箇所においても発災後2週間で全ての通行止めを解除した。

JR呉線と広島呉道路は、国道用地の活用もあり、予定より約2ヶ月前倒しの復旧となった。

また、関係機関と連携した渋滞対策により、渋滞が緩和され、通勤・通学をはじめとする人流や物流の安定が図られていった。

4. おわりに

今回の災害対応では、第一線でご尽力頂いた関係業者をはじめ、関係機関、地元自治体のご協力により、早期復旧が可能となった。引き続き、被災地の復旧を進めつつ、激甚化する災害への備えにも万全を期してまいりたい。

賛助会員 いであ(株)、(株)ウエスコ、セントラルコンサルタント(株)、大成建設(株)、日本道路(株)、宮川興業(株)、ライト工業(株)



水尻地区の被災状況と迂回路計画